

事業報告書

令和5年度ている塾出前講座/ジェンダーを考える教室

アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）～ジェンダー平等社会のために～（WEB講座） 第1部：ている塾出前講座「女性活躍とアンコンシャス・バイアス」 第2部：ジェンダーを考える教室「生きづらさとアンコンシャス・バイアス」 第3部：トークセッション「ジェンダー平等社会のために」	
配信日時	令和5年11月10日（金）9:00～令和5年12月22日（金）17:00
目的	社会生活を送る中で性別・年齢に関わらず、学校・職場・日々の生活において生きづらさを感じている人がいることが課題となっている。今回は「女性人材育成事業」と「啓発学習事業」の二つの事業を融合し、女性活躍推進においても、ジェンダー平等においても重要視される「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」をキーワードとして、二人の講師による切り口の異なる講話及びトークセッションを開催する。 社会をより良くしていくためにできることについて、受講機会が限られる地域においてもより多くの受講者が、自らが考える機会としてもらうべく録画動画配信で提供することとする。（第6次沖縄県男女共同参画計画 DEIGO プラン1・2・3・4）
対象	関心のある方（性別・年齢問わず）
主催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
講師	第1部：ている塾出前講座「女性活躍とアンコンシャス・バイアス」 喜納 育江 氏（琉球大学 副理事・副学長） 第2部：ジェンダーを考える教室「生きづらさとアンコンシャス・バイアス」 新垣 誠 氏（キリスト教学院大学 人文学部長） 第3部：トークセッション「ジェンダー平等社会のために」 喜納 育江 氏 × 新垣 誠 氏
開催場所	YouTube（録画動画配信）
受講者数	申込者数：94名（再生回数：402回）
講演内容 （概要）	第1部：「女性活躍とアンコンシャス・バイアス」喜納 育江氏 講師は、「女性活躍」という言葉は、2016年に「女性活躍推進法」が施行された頃から使われ始めたものの、HDI(Human Development Index、人間開発指数)、GGGI(The Global Gender Gap Index、グローバル・ジェンダー・ギャップ指数)における位置づけ、女性の政治参画状況などを例に挙げ、ジェンダー平等が他国と比較して大きく遅れている日本の現状を紹介した。 講師は、日本で女性がトップに選ばれない理由の背景には、人材多様化の敵「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」があると述べた。アンコンシャス・バイアスは誰でも（裁判官のように公平であることを公言するような人でも）持っているものであり、職場にも多くの無意識の偏見があること、「ステレオタイプ・スレット」、「身内意識とよそもの意識」、「些細な侮辱」などにカテゴライズされることなどを説明した後で、偏見を起こさせるような連想は、意識的に学習し直すことによって根絶させることができる。偏見には「自分が他者に向ける無意識の偏見」、「自分に向けられる無意識の偏見」の双方があるが、これを解消できるのは、自分の考えが誤っていないかを相手に確認し、相手から言われたたら相手を怒らせないような言い方で相手に伝えるといったコミュニケーションスキルを上げることに他ならない。今日からバイアスというメガネをはずすメンタルトレーニングをしようと結んだ。

第2部：「生きづらさとアンコンシャス・バイアス」新垣 誠氏

コミュニケーションツールである「言葉」は、使い回すことで自分から遠ざかる場合がある。「男」「大学教授」「すいんちゅ(首里人)」といったカテゴリーを表す言葉で自分を表現する時、人はアイデンティティを獲得すると共に、自分をはめる「枠」となる場合もあるとして講師は話し始めた。

「男」「女」というカテゴリーは最近でこそ一部で「どちらでもない」といった選択肢を選べる場合もあるが、一生ついて回るものであり、社会から押しつけられたり、自分でその期待に応えようとしたり、考え方や行動をしぼる大きな規範となる。これが自分の一部となり「無意識化した偏り(アンコンシャス・バイアス)」となる。

講師は、旧盆時の親戚の集まり、育児をする中での自分自身の体験を例に挙げ、アンコンシャス・バイアスに気が付きそれを正す行動を取ろうとしたにもかかわらず周囲の理解を得られない時に、抗うことがいかに難しいかを説明した。当たり前になっていないことは受容されないことにつながり、自分らしさにダメだしされたことで生きづらさにつながる。

ジェンダーギャップ指数を見ても日本の順位は極めて低く、一番遅れている女性の政治参画を増やしていくためにも男性の家事育児参画が当たり前になることが必要である。自分ひとりの意識が高くなって社会からの風が強いと飛ばされてしまうので、同じ意識を持つ人同士が共通の思いでお互いを励ましあい進んで行くことが大切であり、沖縄社会もより住みやすくなると思うと述べた。

第3部：「ジェンダー平等社会のために」喜納 育江氏×新垣 誠氏

小さい頃からお互いを知っているという講師二人による和気藹々としたトークセッション。子どもの頃の思い出、お互いの近況報告に始まり、周囲の理解が進まないジェンダー平等は進まないこと、大学生が意外と保守的あること、先生や親がちょっと非常識な方が子どもは楽に生きられるかもしれない、などなど話題は多岐に。

今の自分たちの行動が、若い世代のアンコンシャス・バイアスを強化するのか、あるいは崩していくのかを決めることになるため、OSをアップデートするように、思ってもいなかったこと(考え方など)が目の前に現れた時に、それをプライドに邪魔されたり、守りに入ったりせずに柔軟に受け入れマイナーチェンジし続けることが大切であることを確認し、お互いにエールを送り合った。

(自由記載欄より抜粋)

- ・3部構成で対談もあり、それぞれの内容も分かりやすかったです。講師の先生方がざっくばらんに話されているのが、聴く側も構えずに気楽に聴けたのも良かったです。
- ・日常生活のなかでのバイアスあるあるが、たくさん出てきて、いかに幼少の頃から身体に染みつくように暗黙の偏見が刷り込まれてきたのかを思い知らされた。
- ・女性だけではなく、男性もアンコンシャス・バイアスによる生きづらさを抱えているという気づきがあった。
- ・講師2名のトークセッションは双方の生きてきた過去、現在・未来への希望を感じました。日本語の無意識の偏見よりも「アイコンシャスバイアス」の言葉が意識を変えるきっかけになり、一人ひとりが生きる非常識の壁を越えていけたらと思います。
- ・先生方の講義を聞くことで、自分の中の無意識の偏見を探すきっかけになった。「この場面で自分はどう考えて動いていたっけ」など、振り返ることができ有意義な発見があった。また、私たちの世代の行動や生き方が次世代に影響を与える、と話していたのが印象的だった。彼らにとって生きやすいロールモデル、前例になれるよう行動したいと思う。

参加者の声